

③4 畠敷地区内水対策事業

受賞機関 国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所
 広島県 北部建設事務所
 三次市

キーワード 流域治水、国・県・市の3者の連携

全建賞審査委員会の評価ポイント

国・県・市が連携した内水対策の取組。国・県・市の3者が連携してハード対策及びソフト対策を組み合わせ、治水事業を実施し、約4年という早期に目標を達成した点が評価された。

1. はじめに

広島県三次市は、中国地方最大の河川である江の川本川と、ほぼ同規模の流域を抱える支川2川が合流するため、急激な河川水位上昇や内水被害が発生しやすい地域であり、平成30年7月豪雨において、同市畠敷地区で大規模浸水被害が発生した。

畠敷地区内水対策事業は、あらゆる関係者が流域全体で行う持続可能な「流域治水」への転換の取組がはじまる以前から、流域に関わる関係者が協働し、水災害対策を行った取組である。

2. 事業の概要

平成30年7月豪雨では、三次市街地において約59haに及ぶ甚大な内水被害が発生し、227戸が浸水した。これを踏まえ国土交通省、広島県、三次市の三者で連携し、平成30年7月豪雨と同様の降雨に対して家屋の床上浸水被害を防止することを目標とした。



浸水被害状況（平成30年7月豪雨）

対策内容の検討に当たっては、学識経験者及び国土交通省、広島県、三次市からなる畠敷・願万地地区内水対策検討会を設置し、河川管理者である国や県が行う河川整備や三次市が効率的かつ効果的な内水排除のための雨水貯留施設等のハード対策に加え、地域と連携し、土地利用に関するルール作りを進めるため、複数回の住民説明会等を通じ、住民との対話を重ねソフト対策を決定した。対策は、以下のとおりである。

- ①三次市において、雨水貯留施設（7,600m³）や排水路の整備（L=156m）
- ②地区内における建築行為や開発行為に対して、住宅

床面の高さ制限や、雨水流出抑制施設を設置することなどを求める土地利用条例の制定

- ③国土交通省において、河道掘削（約46,000m³）や樹木伐採（約81,000m³）、畠敷救急内水排水機場の排水ポンプの増強（2.0m³/s）や燃料タンクの増設（約8,000ℓ）

- ④広島県において、支川大谷川の改修（堤防の嵩上げ L=147m）



各機関の取組内容

3. 事業の効果

畠敷地区内水対策事業完了により、近年江の川水系で発生した洪水である令和2年7月豪雨や令和3年8月豪雨でも、同地区では家屋の床上浸水被害が解消するなど、大きな効果を発揮した。

4. おわりに

三次市が整備した雨水貯留施設は、水が溜まっていない時は、隣接する市民ホールの臨時駐車場や公園的な利用が出来るよう整備しており、平時から広く市民に利用されている。

畠敷地区内水対策事業を実施に当たり三次市民をはじめ多くの方々のご協力を賜り、多面的な取組が早期に完成したことに感謝を申し上げますとともに、「流域治水」の取組が他の地域へ広がることを期待する。

賛助会員 (株)建設技術研究所、いであ(株)、(株)荒谷建設コンサルタント、(株)サンヨー